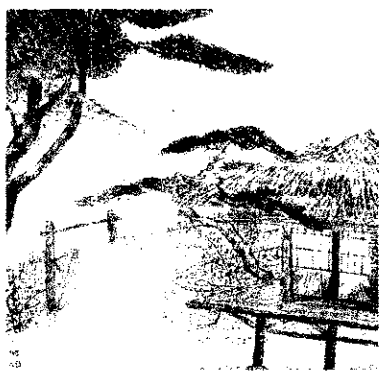


令和6年度の事業計画

5/4	新役員・新理事会『令和5年度事業・決算報告、令和6年度事業・予算案、第89回芭蕉祭』
6/2	総会；『令和5年度事業・決算報告、令和6年度事業・予算案、第89回芭蕉祭』
6/28	「出前授業」晴嵐小6年に「芭蕉と国分について授業」 保勝会理事（中山敏夫さん）
7/16	「出前授業」晴嵐小6年に「俳句の作り方指導」 幻住庵俳句コンクール撰者（馬場民代さん）
8/24	役員・理事会 第90回幻住庵芭蕉祭運営・前日及び当日の役割分担等について
9/1	幻住庵俳句コンクール年間優秀賞審査会（一般の部）
9/16	幻住庵芭蕉祭俳句審査会（少年の部：晴嵐小6年、北大路中、栗津中生徒）
10/5	芭蕉祭前日準備（役員全員で実施）
10/6	第89回幻住庵芭蕉祭 茶席設置
10/26	幻住庵芭蕉祭反省会
年間通して	幻住庵俳句コンクール【年4回 第119回～第122回】 入賞者に賞状・記念品送付（年4回実施。1回毎に整理・選句・選句集発行・入賞者に送付）



元禄3年当時の幻住庵想像図

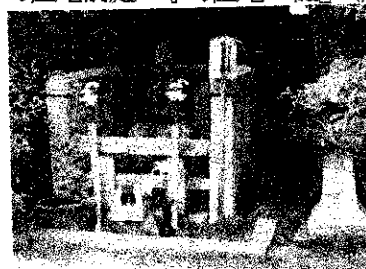
—連載— 芭蕉はなぜ義仲寺に葬られたのか

（その5）前回の続き 芭蕉の書と柿衛文庫、江戸時代の木版技術

伊丹市に「柿衛文庫」というのがあります。芭蕉の直筆をはじめ俳諧関係の資料を数多く収納しています。伊丹市長を務め、聖心女子大学教授でもあった岡田利兵衛は、江戸時代から続いてきた家業の酒造業を継ぎました。私財を投じて、芭蕉の直筆をはじめ、関係資料の収集に努めました。それらは約6,500点に上りました。氏の没後、財団法人「柿衛文庫」が設けられ、そこに託されました。

氏は多くの著書を出しましたが、その一冊に『芭蕉の書と画』があります。それによると、芭蕉の書風は、不断の真摯な努力と精進によって8つの段階に分かれるとされています。幻住庵前庭の『幻住庵の記』（陶板）の書体は、円熟期の最も優美なものようです。

芭蕉は俳画も画きました。画家でもあった門人の許六の絵を習ったようです。芭蕉はまとまった俳論は書いていませんが、多くの俳文や紀行文を残しています。しかし、生前に刊行されたものは『幻住庵の記』だけです。連句集『猿蓑』に収録されました。他は、すべて門人の手で没後に刊行されたものです。



義仲寺にある松尾芭蕉の墓

『猿蓑』の現物は京都大学の資料館に収納されています。幻住庵の前庭のものはこれを撮影、2倍に拡大して、陶板に埋め込んだものです。私はこれを見て、江戸時代の木版印刷の技術の高さにも驚いています。文字を逆に写しとって、版木（桜の木が多く使われた）に正確に彫らなければなりません。大変な技術です。もちろん、一度、下版を作れば、いくらでも増刷できます。しかし、こうした事情から、出版には結構、資金がいりました。また、値段も高かったようです。そこで、京都や大阪、江戸には、たくさんの貸本屋がありました。地方には、行商の貸本屋が廻ってきたようです。（私の子ども時代には半期毎に行商の菓売りが廻ってきました。使った分だけ代金を受け取り、新しく補充してくれました。「富山の万金丹」という言葉がありますから、富山から来たのか、それとも近くの甲賀町からだったのでしょうか。買本屋もそれと同じだったようです。）

江戸時代には「寺小屋」が各地にあり、当時の識字率はおそらく世界で一番高かったでしょう。俳諧が盛んだったのもその所為だったと私は思っています。

（保勝会元理事 山田 稔）